
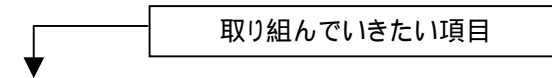


地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が快適で安全に生活出来るよう、独自の理念を作り上げている		
	理念の共有と日々の取り組み	ホームの運営理念をさらに具体的な目標にして、毎朝の朝礼でその目標を唱和することで、職員の意識を高めるよう努めている		
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
	家族や地域への理念の浸透	入所前の重要事項説明書により説明したり、ホームの玄関や食堂、廊下にも掲示し、分かりやすく伝わるよう努めている		
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる			
	2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に積極的に挨拶を行っており、隣近所の人と話をすることが多い。近所の方が家で育てた果物を持ってきてくれたりもする		
5	地域とのつきあい			
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りに参加したり、ホームの行事の際はチラシを配布し、地域の人も参加して頂けるよう積極的に取り組んでいる。自治会にも参加している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>相談、見学は随時行っているが、地域の高齢者の方々についての話し合いを行う機会が少ない。</p>		<p>相談、見学などを行っている事をアピールし、気軽に立ち寄って頂けるようにしていきたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価内容は玄関に掲示しており、誰もが自由に確認できるようになっている。評価内容自体、カンファ等で話し合い具体的な改善点を見つげられるよう努めている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、民生委員、町会役員支援センター長などと情報を交換し、意見を反映していけるよう努めている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>随時、パンフレットを届けたり、高齢者福祉課、包括支援センターを訪問し、サービス提供表を活用して、情報交換を行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>随時相談は行っており、必要な方には対応できるようにしている。職員へは、その都度説明を行うようにしている</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関する講演会や勉強会に参加し、そこで学んだ事を職員同士で共有しており、日々のケアにあたっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当ホームの特性を基に、日々の生活の流れ等具体的にわかりやすく説明し、理解、同意を得るようにしている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に日々の生活の中でみえてくる利用者の訴え、意見を汲み取り、職員間でも共通理解し、(話し合い)対応できるよう努めている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告したり、定期的に電話連絡して近況報告を行っており、報告は密に行っている		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族からの意見等は傾聴し、職員間で話し合い、対応できるよう努めている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からあがった意見は管理者にも周知してもらうよう、随時、報告、話し合いを行っている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事を行う際には人員を設けたり、より安全に配慮し、シフトを作り対応している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係となり、継続したケアを行えるよう離職を減らし、利用者、職員が常に安心した生活を送れる場となるよう、関わりを多く取るよう努め、配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会や事例研究発表会を開催している。外部の研修も職員の経験年数に合わせて参加している	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列内のグループホームでの勉強会は開催しており、意見交換を行っているが、地域の同業者間と交流する機会がない	地域の同業者と交流する機会を設け、意見交換できるように検討していきたい
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各々のストレスや背景を知るために会話を出来るだけ多く持つように努めている。親睦会も毎月ではないものの、行っている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	声掛け、助言などをし、個人個人に関わりを持ち、各自の状況周知に努めている	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人とも話し合いの機会を設け、本人の状況の確認、訴えを聴きとる等行っている	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	定期的に家族と連絡を取り、今までの生活状況、困っている点など詳しく話をし、受け止めるよう努めている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本当にその方がグループホーム対象者であるかよく検討し、担当ケアマネージャがいる場合等、ケアマネージャなどとも相談するようにしている</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>その方の状態をよく観察し、始めは声掛けを多くし関わりを持つ機会を増やし、不安感が軽減できるようにするなど個々に合った対応をしている</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>個々に合ったスキンシップを心掛け、共に笑い、喜び合うよう明るい表現・表情に努めている。又、昔の風習やならわしなど会話の中で教えられたりしている</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や家族の訪問時など、本人を加えて話しをするようにしている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>これまでの入居者の生活歴や性格など情報収集し、それらを職員間で共有することで、面会時などに入居者の状況に応じて、話の話題を提供したり、外出・外泊を勧めたりことで、入居者と家族の橋渡しの役割を担うよう努めている</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人がデイサービスを利用されている時はデイサービスへ会いに行き行って頂いたり、会う機会を作れるよう支援している</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者の性格等をしっかりと把握し、入居者が孤立しないよう声掛けしたり、場面作り・環境作りを行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	随時、相談等には応じるようにしている		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中から、本人の思いや希望を汲み取り、対応できるよう日々の状態をよく観察し、入居者の希望をできる限りくみ取り、尚且つ入居者が安全で快適に生活出来るように努めている		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族や本人から情報収集し、サービス利用の経過等の把握に努めている		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録を活用し、日々の状態把握が行いやすいよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族にどのような生活をしていきたいかを意向を聞き、それに基づいて介護計画を作成している		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、介護計画にそって評価しているため、その介護計画に対し、入居者に変化が生じた場合は、再度話し合い新たな介護計画を作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙を変更したことで、職員間での情報の共有化を図るために必要な、職員が見ても分かりやすい記録となり、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	随時、相談を受け付けており、対応出来るよう検討し支援をするようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ハーモニカのボランティアや地域の小学校の実習の受け入れ等を行うことで協力している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な時は、地域のケアマネジャー等と協力して支援していけるよう体制をとっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要な時は、協働して支援していけるよう体制をとっている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族と相談し、納得した医療機関に受診している。病院へは、事前に電話連絡が取れ、優先的な診察が受けられるようになっている		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>助言・指導を受けられる医師との連携は確保されている。又、入居者の状態に合わせて担当医があり、定期的に相談したり治療を受けられるようになっている</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職とは定期的に話し合いが持たれており、入居者の対応について細かいところまで相談している</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家族・病院・施設と連携を蜜に取り、信頼関係を築き、早期退院に向けての働きかけに努めている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時に家族より終末期に向けた方針について話し合っており、かかりつけ医との相談も行っているものの、現在、重度化や終末期にあたる入居者はおらず、方針の共有には至っていない</p>		<p>本人・家族などと話し合いを行っていき、本人の希望とされる形となるよう方針を検討していき、共有・理解していくよう体制をとっていく</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在、重度化や終末期にあたる入居者はいないが、常に本人・家族・かかりつけ医との連携は図っているが、具体的な対応としてどこまで行うのかは明確ではない</p>		<p>ホームとして重度化や終末期の対応をどこまで行っていくのか具体的に検討していく</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族・本人と十分な話し合いをし、情報交換する事はもちろんの事住み替えによる混乱を防ぐ為に、馴染みの物を自由に持ち込めるようにし、入居者が安心して暮らせるよう支援している</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりの尊重はホームの理念であり大切にしている。又、認知症に対する理解・知識を深め、適切な対応が出来るよう勉強会を実施している	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の中には、日常生活の中で決して強いる事なく相手の気持ちを察しながら行っており、入居者自体、自ら行動出来たり表現出来るよう努めている	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・レクリエーション等日々の流れとして時間は決まっているものの入居者のペースで行えるよう努めている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望に合わせて美容室に一緒に行っている。又、入居者の好みの服が着れるよう衣類の選択は本人に任せて支援している	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るようテレビの音にも配慮し、介助が必要な人にはさりげなく介助を行えるよう心掛けている。準備や片付けなど、出来る事は一緒に行うようにしている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ある程度、時間帯を決めたり、量を制限したりしているものの、入居者一人ひとりの状況に合わせて、本人が望むものを楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンを把握し、介助を行っている。又、自立支援を念頭に個別に行っている</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴回数は1日おきに行っているものの、本人の希望に応じて温度や時間帯、入浴回数などの調整をしている。入居者の状態に合わせて、足浴や清拭も実施している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活リズムを把握し、支援を行っている。不眠気味な入居者に対しては、生活習慣や生活リズムの把握、情報収集する事で原因の究明に努めている</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の残存能力に応じて、食器拭きや洗濯物たたみ等役割を持って行っている</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>常に金銭管理を任せているわけではないものの、買い物時には財布を渡し、職員と一緒に会計している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候に考慮しながら、日々近隣への散歩を促している。レレ-ション表にも、なるべく外へ出るよう記入してある。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>公園に花見に行ったり、レストランにご飯を食べに行ったりと行事として企画し支援している。家族とも出掛けられるよう声掛けし配慮している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各フロア・事務所の電話は自由に利用出来る。掛けられない入居者には職員が支援している。手紙に関しても季節に応じてハガキにて対応している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問は多く、自由に訪問出来る雰囲気作りをしている。訪問者の対応には気を付け意見や希望なども取り入れている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則的に身体拘束を行わない方針で行っている。現在、身体拘束を行っている入居者はいない。身体拘束について、職員の理解を徹底し、拘束のないケアを実施している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近くは交通量も多く、帰宅願望が強かったり、不穩で外出しやすい状況にある場合、事故防止の為家族に説明し、玄関の鍵を掛ける場合もある		不穩時の対応を見直し、頻度や時間を振り返り、やむを得ない場合の判断基準を職員間で検討していきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者と過ごすことで安全確認するよう心掛けている。記録も入居者の動きが把握出来るよう場所も考慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物や洗剤などは、入居者の手の届かない所に棚を設置して管理している。必要な場合は職員が取って入居者が使えるよう支援する		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に事故防止のために個々の状態を把握するよう努めている。事故が起きてしまった場合は、ひやり・はっと書を活用しており、対応の仕方が適切であったか、再発防止の検討会を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生に関しては看護職の指導の下、勉強会を行っているものの、全職員が行えるとは言いがたい		緊急時の対応について、消防署で実施する救命講習等の講習を受けられるよう設定したい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、消防訓練は行っており、職員間でも避難方法を話し合っている。地域の人々の協力を得られるよう、運営推進会議で検討し、働きかけを行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃から家族と話し合いをしており、目配りの強化、巡視を多くする事で事故のないよう努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックは必ず実施し、記録と報告の習慣を付けている。常に注意して入居者の状態を観察している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は特定の職員が責任を持って行っている。用法・用量については看護職より指導を受けて行っている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の状態に合わせて、食物繊維の摂取や必要に応じた水分摂取、適度な運動を心掛け、便秘予防、排便コントロールを行っている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・食後・就寝前の口腔ケアについては常に声掛けを行っている。入居者の状態に合わせて、歯間ブラシや小さめのハブラシを使用したりと工夫している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者の状態に合わせて食事形態を変えて提供している。食事の摂取量のチェックも毎日行っており、水分補給にも気を付け、時間を見て定期的に行っている</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	<p>手洗いうがいの徹底はもちろんのこと、感染マニュアルが作成されており、各フロアに全職員がいつでも確認出来るように置いてある。毎日、手すり・トイレ・テーブルなどの共有物にピューラックスで消毒している</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材管理に関しては、業者に任せているが、衛生管理・安全な食材の管理は徹底されている。各階のキッチン毎日掃除を行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関や中庭に草花を植えたり、家庭的な雰囲気作りを心掛けている</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>手すりや居間の出入り口には木目を活用したり、のれんを掛けたりすることで家庭的な雰囲気作りに努めている。フロア内の飾りも季節に応じて変え、その都度、入居者と共に作成している</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂の横に共用スペースとして和室があり、入居者がいつでも入れるようになっている。又、三角コーナーにはテーブルと椅子を用意している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が安心して過ごせるように個性を尊重し、馴染みの家具や置物を自由に持ち込み使用している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気空調には配慮を行っている。温度調節にも一人ひとりの体調や服装にも考慮しながら行っている。部屋の温度も24 程度になるよう調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所には、手すりが設置されていたり、浴室にも滑り止めを使用している。又、転倒しても痛くないよう絨毯が敷かれている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	なるべく自力で行ってもらえるよう、声掛けを動作分割して行ったり、話し方を変えるなど工夫している。得意なことを伸ばし、活躍できる場の設定に力をいれている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1Fのベランダを活用しての園芸や外気浴を行ったり、洗濯物を干したりしている。2Fフロア内にも観葉植物や花が置いてあり、入居者が自主的に水やりを行っている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・季節の行事を大切にしており、入居者に楽しんでもらえるよう、日々たくさんの企画に取り組んでいます
- ・フロア内も季節に合わせ、展示物を変え、入居者に四季を感じてもらえればいいと思い入居者と共に作成しています。
- ・庭で野菜を育て、収穫するという家庭菜園を通して、入居者全員で達成感を共に分かち合い、入居者の方々の生きがいになればと思っています。
- ・入居者と接する際は、常に笑顔を決やさないことを心掛けています
- ・ケアプランは各々の残存能力を活かし、集中的にじっくり行えるような内容になっており、毎日記録に残すことで、次のケアプランに繋がったり、入居者のADLの向上にも繋がっている